

第5年組 音楽科学習指導案

指導者 福岡市立〇〇小学校 〇〇 〇〇

題材名 音が重なり合う響きの美しさを味わいながら聴いたり合奏したりしよう

教材曲 鑑賞曲「威風堂々 第1番」(エルガー作曲)
器楽曲「威風堂々」(エルガー作曲 長谷部匡俊編曲)

指導観

- この題材では、楽器の音が重なり合う美しい響きを味わったり、曲想に合った表現を目指して工夫したりすることをねらいとしている。そのために、鑑賞活動で感受し、理解したことをもとに、速さや強弱などの表現の工夫を意欲的に行えるような授業実践が大切であると考え。

教材には、鑑賞曲「威風堂々 第1番」(エルガー作曲)、器楽曲「威風堂々」(エルガー作曲 長谷部匡俊編曲)を設定した。鑑賞曲「威風堂々 第1番」は、エルガー作曲「威風堂々」全5曲の行進曲の中の1番である。A-B-A-B-C (A: 激しく動く部分、B: ゆったりと流れる部分の繰り返し、C: 終わりの部分)で構成されている。B部分はイギリスでは、「希望と栄光の国」と呼ばれ第2の国家と称されるほど愛されている曲である。器楽曲「威風堂々」は、Bの部分が編曲されたものである。ハ長調、2/4拍子、全体的にレガート奏法であり、堂々と行進する様子を表した曲である。a-a-b形式になっており、aの部分はmf、bの部分がfで、徐々に盛り上がる。速度は音符=80~88と表記されており、②~⑤のパートはすべて四分音符で拍をとり、その拍に乗って、①のパートの主旋律がゆったりと流れるような旋律の動きをしている。何度か繰り返して演奏することで、音色を変えたり、速度や強さの変化をくわえたりしながら曲想を表現していくことができる。

- 本学級は、音楽に対して関心を持っている児童が多く、音楽の学習に意欲的に取り組んでいる。一方、楽器の演奏に苦手意識が強い児童も数名いる。これまでの表現や鑑賞の活動を通して児童は、楽曲の構成に着目して器楽曲を聴いたり演奏したりした経験はある。しかし、大編成の楽曲において音が重なり合う響きの美しさを味わいながら聴いたり、自分たちで器楽演奏をしたりした経験はない。強弱や音色の違いによって曲想が変化することに気づいているものの、強弱、音色、速度などの観点で曲想にふさわしい表現を工夫した経験は少ない。本題材では教材の曲想をしっかり捉え、音が重なり合う響きの美しさを味わわせるとともに、鑑賞活動で聴き取った音楽的要素を、表現活動に意欲的に演奏に取り入れていこうとする態度を養うことが課題である。
- 本題材の指導にあたっては、楽器の音が重なり合う美しい響きを味わい、表現を工夫するおもしろさを感じさせたい。つかむ段階では教材曲を鑑賞し、曲想をつかませる。その際、注目すべき音楽的要素を聴き取りやすいよう音楽的要素を「音楽のひみつ」として取り上げる。また、自分が見つけた要素と聴き取った曲想を交流する場を設けることで、鑑賞する力を伸ばしていけるようにする。深める段階では主に、聴き取った音楽的要素を表現活動に生かしていく活動を行う。まず、主旋律のみと低音を重ねたものを聴き比べたり、教師がさまざまな奏法で主旋律を範奏し、聴き比べたりする。聴き比べ活動によって、音が重なる美しさや、正しいタンギングによる演奏のよさなどに気づき、実践していけると考える。次に、鑑賞活動で見つけた表現の工夫となる音楽的要素(強弱、音色、速度など)を想起し、曲想に合わせて表現活動に取り入れるようにする。工夫の観点を絞り、自分たちで見つけた表現の工夫を加えることで、どの児童にも演奏を工夫する楽しさや、演奏に参加する喜びを味わわせたい。最後の味わう段階でも、表現の高まりを感じ取るために、聴き比べを行う。録音しておいたはじめの表現と工夫した表現を聴き比べることで、同じ曲でも演奏の仕方で、曲のイメージが異なることを確かめるようにする。

目標

- 楽曲の構成に気を付けて聴いたり、曲想に合った演奏をしたりしようとしている。(関心・意欲・態度)
- 主な旋律と副次的な旋律が重なり合う響きの美しさや働きを感じ取ることができる。(感受・表現の工夫)
- 音の重なり合う響きの美しさを味わいながら、主な主旋律と副次的な旋律のバランスを考えて演奏することができる。(表現の技能)
- 曲の構成に気を付けるとともに、音の重なり合う響きの美しさを感じ取りながら聴くことができる。(鑑賞の能力)

指導計画 (5時間)

段階	時	学習活動と内容	教師のかかわり	評価規準
つかむ	1	<p>1 本時のめあてをつかむ。 「威風堂々」の曲の感じを聴き取ろう。</p> <p>2 鑑賞CD「威風堂々 第1番」を聴く。 (1) 曲を鑑賞して気づいた楽曲の構成要素や曲想について話し合う。 【期待される児童の姿】 ・ A-B-A-B-Cの構成になっている。 ・ 楽器がどんどん増えて、力強い感じがする。 ・ 音がだんだん強くなって、盛り上がっていく感じがする。 ・ 最後の部分は、速さがゆっくりになり、なめらかに終わっている。 (2) 聴き取ったことをもとに、本題材の見通しを持つ。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈題材のめあて〉 音が重なり合う響きの美しさを味わいながら聴いたり合奏したりしよう。</p> </div> <p>3 本時のまとめをし、次時の学習内容について知る。 (1) 本時の活動を振り返り、自己評価をする。 (2) 次時はBの部分を演奏することを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書や写真をもとにオーケストラの編成について知らせる。 ○ 楽曲の構成要素を、「音楽のひみつ」として提示し、構成要素をとらえやすいようにする。 ○ A、B、Cの部分の変化が分かるようにカードを掲示する。 A 激しく動く部分 B ゆったりと流れる部分 A 激しく動く部分 B ゆったりと流れる部分 C 終わりの部分 	<p>(関) 合奏作りに取り組む意欲を持つことができる。</p> <p>(鑑) 曲の構成と曲想の違いに気をつけながら聴くことができる。</p>
深める	1	<p>1 前時を想起し、本時のめあてをつかむ。 主旋律 (①パート) をリコーダーで正しく演奏しよう。</p> <p>2 リコーダーで主旋律を演奏する。 ① 主旋律を正しいリズムで口ずさむ。 ② 主旋律を正しい音程で階名唱する。 ③ 主旋律をリコーダーで演奏する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主旋律を正しく演奏できるように、主旋律だけの拡大楽譜を準備する。 ○ 間違いやすいリズムを全員でリズム打ちさせたりリズム唱させたりして確かめる。 ○ #ファの指使いを確かめる。指番号をつけたり、リコーダーの絵を掲示したりする。 	<p>(技) 主旋律を階名唱やリコーダーで表現することができる。</p>

	<p>3 曲想をいかした演奏の仕方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ゆったりと流れるような奏法や弾んだ奏法での演奏を聴き比べる。 ○ ゆったりと流れるような奏法に気をつけて演奏すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 息の使い方 (ロングトーン) ・ タンギングの仕方 ・ フレーズのまとまり <p>4 本時のまとめをし、次時の学習内容について知る。</p> <p>(1) 本時のめあてを振り返り、自己評価をする。</p> <p>(2) 次時は、より曲想に近づくようにすること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 曲想に合った演奏の仕方が分かるように、教師が色々な奏法で主旋律を演奏する。 ○ 息をたっぷり吸って音符の長さに気をつけて、なめらかなタンギングの仕方演奏させる。 	<p>(感) 主旋律の特徴を感じ取って演奏している。</p>
1	<p>1 前時を想起し、本時のめあてについて話し合う。</p> <p>(1) 主旋律のみと音を重ねたものを聴き比べて曲想の違いについて考える。</p> <p>(2) 本時のめあてについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>主旋律に低音部やほかのパートを入れて演奏しよう。</p> </div> <p>2 低音部⑤パートと他のパートの役割をとらえ、低音部⑤パートを演奏する。</p> <p>(1) ト音記号とヘ音記号の楽譜を見比べて、音の高さ違いやヘ音記号の意味を知る。</p> <p>(2) パート⑤の旋律を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 階名唱をする。 ○ パート⑤を正しく演奏する。 <p>(3) パートに合うかどうかを聴きながら、低音部に合う音色を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バスキーボード ・ ピアノ ・ 電子オルガン等の低音 <p>2 全員で合奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主旋律と低音部⑤のみ ・ 他のパートも入れて <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <p>【期待される児童の姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 低音や、他のパートと一緒に演奏した方が盛り上がった感じする。 ・ 低音には重々しい音の方が合う。 </div> <p>3 本時のまとめをし、次時の学習内容について知る。</p> <p>(1) 本時のめあてを振り返り、自己評価をする。</p> <p>(2) さらに表現の工夫を加えること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音を重ねることで音に深みが出る様子が分かるように、①のパートの旋律のみの演奏と低音部⑤パートを入れた演奏・他のパート(②③④パート)を入れた演奏を聴き比べる。 ○ パート部分のいった拡大楽譜を用意する。 ○ ト音記号とヘ音記号の楽譜を提示し、ヘ音記号楽譜の読み方を指導する。 ○ パートに合うかどうかを聴きながら演奏させ、楽器の音色を選ばせる。 ○ パート⑤を演奏するときも音の重なりを感じられるように主旋律と一緒に演奏させる。 ○ 音の重なりが響きが聴き取りやすいように聴き役を決める。 ○ 役割を交代しながら演奏させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 主旋律を演奏する子 ・ パート⑤を演奏する子 ・ 演奏を聴く子 	<p>(感) 音の重なりによる表現の深まりを聴き取ることができる。</p> <p>(技) ヘ音記号の部分の階名読みができ、パート⑤を演奏することができる。</p> <p>(感) パート⑤の特徴を感じ取って演奏することができる。</p> <p>(技) それぞれのパートを合わせて演奏することができる。</p>

1 (本時)	<p>1 本時のめあてについて話し合う。</p> <p>「たたえる気持ちの高まり」が表れるように表現の工夫をして合奏しよう。</p> <p>2 最初に聴き取った表現の工夫の観点を想起する。</p> <p>○ 5の3が目指す曲想について確認し、本時で工夫する観点を明らかにすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ たたえる気持ちの高まりが表れるように楽器の数を増やしていく。 ・ 強弱の工夫をする。 ・ なめらかに終わるように、だんだん速度をゆっくりにする。 <p>3 表現を工夫して演奏する。</p> <p>(1) 強弱(音色)を工夫して演奏する。</p> <p>(2) 速度を工夫して演奏する。</p> <p>4 本時のまとめをし、次時の学習内容について知る。</p> <p>(1) 本時のめあてを振り返り、自己評価をする。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>【期待される児童の姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最初は弱く、最後は強くすると盛り上がった感じがする。 ・ 楽器の数を増やしたら、力強い感じがした。 ・ 音が重なると、だんだん気持ちが高まり楽しく演奏できた。 </div> <p>(2) 5の3の「威風堂々」を完成させること。</p>	<p>○ 工夫の観点をとらえるために、鑑賞CDをもう一度聴き比べさせる。</p> <p>○ 工夫の観点が分かりやすいようにカードを提示する。 音色 強弱 速度</p> <p>○ 同じ旋律でも演奏の仕方(表現の工夫)で、曲のイメージが異なることを確かめる。</p> <p>○ 聴く役を決めて、工夫を加えたときの曲想の変化を発表させる。</p>	<p>(鑑) 鑑賞CDを聴き、強弱や速度の違いを聴き取ることができる。</p> <p>(技) それぞれのパートを合わせて演奏することができる。</p> <p>(感) 曲想に合った合奏をするため、表現の工夫をして演奏することができる。</p>
味わう	<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>5の3の「威風堂々」を完成させよう。</p> <p>2 これまでの表現の工夫を加えて全員で演奏することで、「5の3の威風堂々」を完成させる。</p> <p>3 録音しておいたはじめの表現と工夫した表現を聴き比べたり、自分のグループと他のグループの表現を聴き比べたりして、違いを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>【期待される児童の姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工夫を加えると、目指す曲想に近づいた。 ・ 最初に合わせたときより、最後に合わせたときの方が気持ちが高まる威風堂々になった。 </div> <p>4 本題材のまとめをする。</p>	<p>○ 工夫した所が分かるように模造紙やカードで提示する。</p> <p>○ 聴き比べる際は、同じ曲でも演奏の仕方、曲のイメージが異なることを確かめるようにする。</p>	<p>(技) 自分たちが工夫した「威風堂々」を演奏することができる。</p> <p>(感) 録音しておいたはじめの表現と工夫した表現、を聴き比べて、その違いを感じることができる。</p>

本時（4 / 5 深める段階）

本時目標

- 「たたえる気持ちの高まり」が表れるように、進んで演奏しようとしている。（関心・意欲・態度）
- 工夫する観点を明らかにして表現を工夫し演奏することで、曲想の深まりを感じ取ることができる。
（感受・表現の工夫）
- 自分のパートを正確に演奏し、他のパートと合わせて演奏することができる。（表現の技能）

本時指導の考え方

前時までに子どもたちは、まず「威風堂々」の曲の構成や曲の感じを捉え、リコーダーで主旋律を正しく演奏することができるよう練習した。さらに、音を重ねることで堂々とした様子を表現できることに気づき、主旋律に他のパートを加えて合奏する活動を行ってきた。そこで本時の指導にあたっては、表現の工夫によってさらに曲想の深まりを感じ取ることができるように、表現の工夫を加える観点について考えさせてから、表現活動に移るようにする。具体的には、まず第1時に行った比べる活動を想起し、工夫する観点をとらえる。次に、5の3が目指す曲想に近づけるためにはどんな工夫が必要を考えさせ、本時で取り組む表現の工夫を明らかにする。表現活動においては、一つずつ工夫を加えていくようにする。その際、工夫したことで曲の感じがどう変わったか確かめさせながら、表現活動を行うようにする。最後に、聴き役からの評価や自己評価を通して、表現の高まりを実感させ次時の活動への意欲を持たせるようにする。

展開

学習活動と内容	教師の指導・支援	評価規準
<p>1 本時のめあてについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「気持ちの高まり」が表れるように表現の工夫をして合奏しよう。 </div> <p>2 最初に聴き取った表現の工夫の観点を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 5の3が目指す曲想について確認し、本時で工夫する観点を明らかにすること。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 気持ちの高まりが感じが表れるようにだんだん楽器の数を増やしていく。 ・ 強弱の工夫をする。 ・ なめらかに終わるように、だんだん速度をゆっくりにする。 <p>3 表現を工夫して演奏する。</p> <p>(1) 強弱（音色）を工夫して演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① リコーダーで、強弱を加える。 ② 繰り返し部分の1回目と2回目で、リコーダーの人数を増やす。 ③ 繰り返し部分の2回目に鍵盤ハーモニカを加える。 ④ 他のパートも加えて演奏する。 	<p>教師の指導・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 工夫の観点をとらえるために、鑑賞CDをもう一度聴き比べさせる。 ○ 工夫の観点が分かりやすいようにカードを提示する。 音色 強弱 速度 ○ 同じ曲でも演奏の仕方(表現の工夫)で、曲のイメージが異なることを確かめる。 ○ 聴く役を決めて、工夫を加えたときの曲想の変化を発表させる。 	<p>評価規準</p> <p>(鑑)鑑賞CDを聴き、強弱や速度の違いを聴き取ることができる。</p> <p>(技)それぞれのパートを合わせて演奏することができる。</p> <p>(感)曲想に合った合奏をするため、表現の工夫をして演奏することができる。</p>
<p>〈表現活動〉強弱（音色）を工夫する活動。 強弱（音色）を工夫することで、目指す「威風堂々」に近づいたかを確認させる。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;">  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; flex-grow: 1;"> <p>主旋律をだんだん大きくしただけでは、あまり変化はなかったよ。楽器の数を増やしたり、他の楽器を加えたりすることで、気持ちが高まってきて目指す「威風堂々」に近づいてきたよ。</p> </div> </div>		

- (2) 速度を工夫して演奏する。
- ① リタルダンドがかかる部分を取り出して練習する。
 - ② 全パートで通して練習する。

○ 速度の変化をとらえて演奏するために、拍をとるパートだけ取り出して練習させたり、手拍子をさせたりして練習する。

〈表現活動〉速度を工夫する活動。
速度を工夫することで、目指す「威風堂々」に近づいたかを確認させる。



1回目よりも2回目をゆっくり演奏することで、より音の響きがきれいになってわたしたちの目指す「威風堂々」に近づいたよ。

- 4 本時のまとめをし、次時の学習内容について知る。
- (1) 本時のめあてを振り返り、自己評価をする。
 - (2) 打楽器を加えて演奏し、次時への見通しを持つ。

○ 打楽器パートは教師が演奏する。